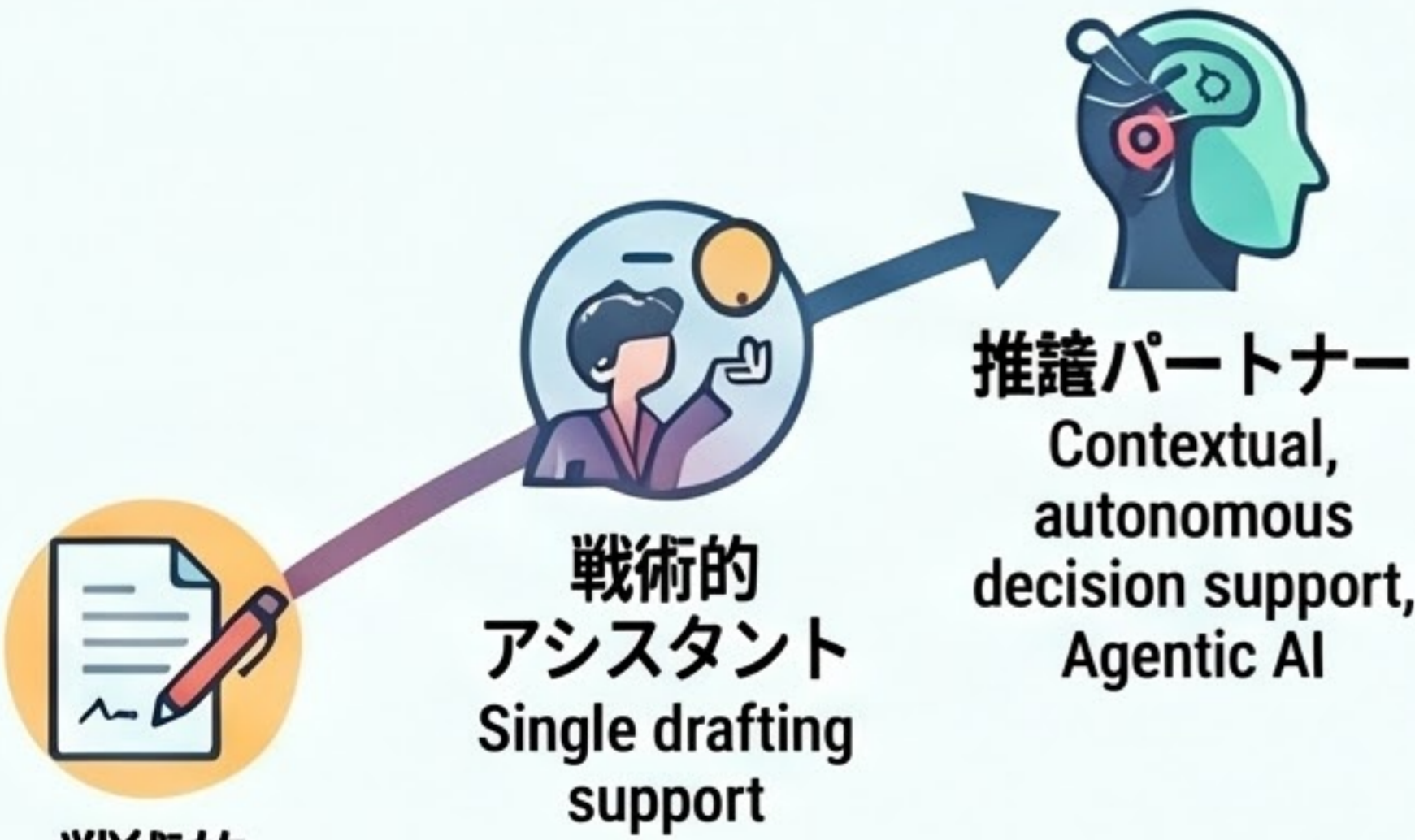


生成AIによる知財ライセンス交渉の変革：AI-to-AI時代の到来

AIの進化：アシスタントから「パートナー」へ

米国市場を牽引する主要プラットフォーム

法的・倫理的課題と実務上のリスク



Luminance vs. Pactum AI		Patlytics：知財特化型AI
Luminance World's first NDA autonomous negoti	Pactum AI Pursuing Pareto-optimal agreements for tail spend	債権分析、クレームチャート、ライセンス交渉支援。 Am Law 100の40%以上が導入

- 秘匿特権 (Attorney-Client Privilege) の喪失リスク
Heppner事件判決：汎用LLMでの機密情報利用はリスク
- 非弁活動 (UPL) と「ガラスボックス」監督
弁護士による透明性のある監督と最終承認が不可欠
- 使用者責任 (Respondeat Superior) の適用
AIの意図しない不利な条件も企業が代位責任を負う

戦術的アシスタント
Single drafting support



90%
レビュー時間短縮

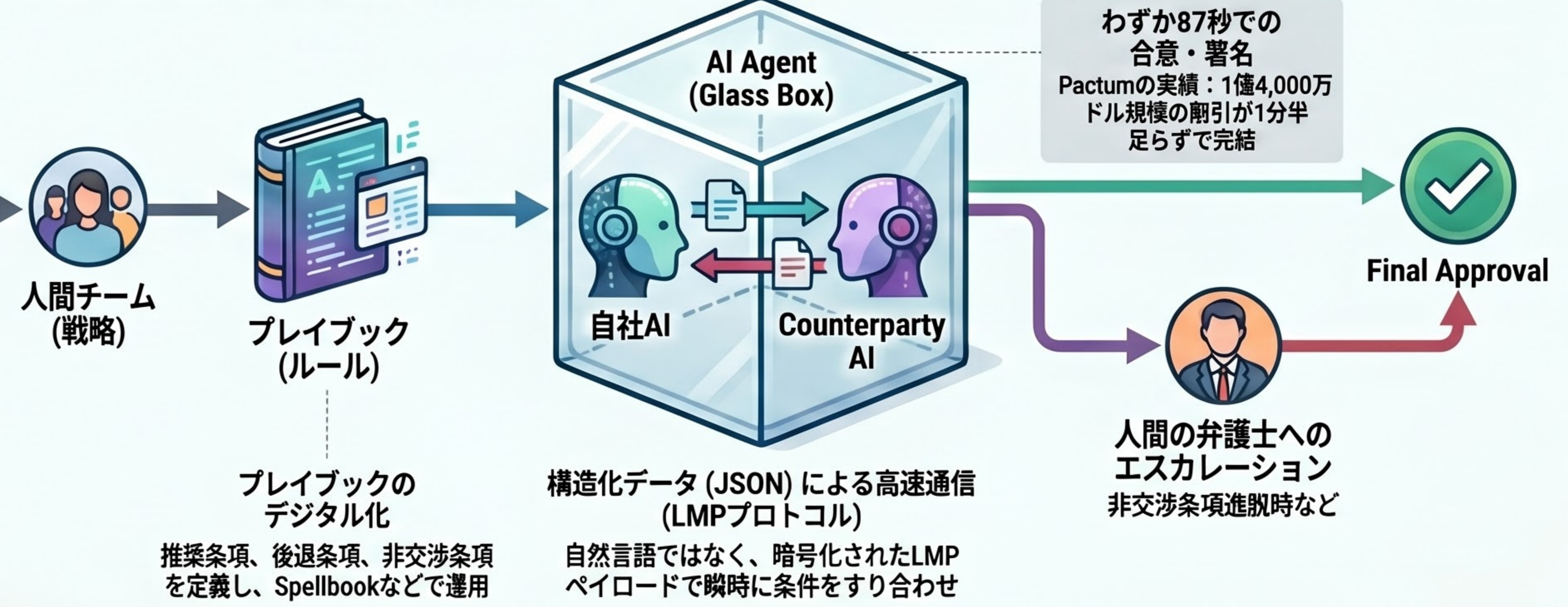
29%
外部コスト削減
AI交渉ボット導入によるコスト・時間の大幅削減、契約管理コスト最大98%削減

B2AIへの意識変化
ビジネスリーダーの半数以上が「AI対AI」交渉にオープン

主要な知財AIプラットフォームの比較

項目	Patlytics	Solve Intelligence
設計意図	顧客・実務家至上主義 (エンドツーエンド交通)	AI研究・自動化至上主義 (ドラフティング特化)
カバー範囲	発明抽出、侵害分析、訴訟、ポートフォリオ管理	特許ドラフティング、明細書作成の高度自動化
主な顧客	Rivian, Xerox, Canon, Xiaomi, Am Law 100	Microsoft(M12), Thomson Reuters Ventures等が支援

AI-to-AI契約交渉のハイブリッド・ワークフロー



プレイブックのデジタル化
推奨条項、後退条項、非交渉条項を定義し、Spellbookなどで選定

構造化データ (JSON) による高速通信 (LMPプロトコル)
自然言語ではなく、暗号化されたLMPペイロードで瞬時に条件をすり合わせ